

い っ ぽ

IPPO

— ひとりのいっぽを、みんなでささえる —



札幌刑務所精神科リカバリーユニット

Psychiatric Recovery Unit of Sapporo prison (PRUS)

事業内容のごあんない

「IPPO」について

- ❁ 令和6年5月より、札幌刑務所において、精神障害受刑者処遇・社会復帰支援モデル事業として、札幌刑務所精神科リカバリーユニット(略称「^{プラス}PRUS」・愛称「^{いっぽ}IPPO」)がスタートします。
- ❁ 精神障害を有する受刑者の割合が増加する中で、社会復帰まで概ね1年をかけ、出所後の適切な治療と安定した地域生活の継続を目指し、各種作業や指導等を集中して提供するユニットです。



教室側廊下より



ミーティング室

ユニット処遇

- ❁ IPPO は、「ユニット処遇」を採用しています。
- ❁ 作業・各種指導・訓練の場所と居室をパッケージ化することで、処遇における機能性や医療提供の効率性、治療環境を向上させるとともに、必要な支援を柔軟に行うねらいがあります。



図書室



調理室



フィットネスエリア



教室

各種指導と治療に特化した日課

- ❁ 日課は、専門的な各種指導や治療、社会復帰の準備のための支援に最適化されています。
- ❁ 体調不良時の通常診察に加え、必要に応じて精神科医師診察、心理面接・福祉面接が実施されるほか、ユニット専属の看護師も常駐しており、医療ニーズに即応できる体制になっています。

6:50～7:30	起床・点検・朝食
7:30～8:00	準備・出室
8:00～10:00	機能向上作業①
10:00～10:10	休憩
10:10～12:00	機能向上作業②
12:00～13:00	運動・昼食・休憩など
13:00～15:40	指導・クラブ活動 (途中休憩あり)
15:40～16:00	後片付け 終了ミーティング
16:00～16:30	還室・入浴・個別指導など
16:30～17:00	点検・夕食
17:00～21:00	余暇時間など
21:00～	消灯・就寝



- ❁ 作業・指導のプログラムには、実際の医療機関でも提供される作業療法、認知療法、心理教育、日常生活訓練をはじめ多彩な種目が実施されます。
- ❁ 刑務官・技官・専門官が協力し、一人ひとりの特性に応じた処遇を目指します。



イメージ挿絵（木版画・シルクスクリーン）

多職種・多機関連携による「チーム処遇」

✿ 刑務官とともに、医師・看護師・作業療法士等の技官、教育・心理・福祉・就労の専門官が連携して、専門性を活かしたチーム処遇を行います。施設内での処遇のみならず、地域とのつながりも重視し、「引受人等への助言・関係調整」「関係機関とのケース会議」「施設外社会復帰支援」等により、社会復帰後の息の長い支援を目指します。

障害特性に応じた作業
心身の機能向上作業

各種の専門的手法を
用いた治療・処遇



日常生活の自立に役立つ
各種改善指導

安定した地域生活のための
持続可能な社会復帰調整

医療機関、地域の事業所や関係機関との連携



施設外社会復帰支援



多職種ケース会議

IPPO の沿革

令和 5 年	10 月	精神障害受刑者処遇・社会復帰支援モデル事業 試行開始
令和 6 年	3 月	リカバリーユニット棟 改修工事完了
令和 6 年	4 月	各団体協定締結式、報道機関等一般公開
令和 6 年	5 月	収容開始(収容定員20名)

Psychiatric Recovery Unit of Sapporo prison (PRUS)

札幌刑務所精神科リカバリーユニット

「 IPPO 」

〒007-8601 札幌市東区東苗穂 2 条1丁目 5-1

電話:011-781-2011